

新宮山彦ぐるーふ第2410回

行仙宿の巡回整備

◇実施日 2月8日（日） 雪

◇参加者 沖崎吉信、畠林秀味、湯川一郎、阪口雄一、山川自知、森奈良好、梶野照雄、村吉光夫 8名

今冬最強の寒波の中、行仙宿の巡回整備を行つた。大阪の平野部でも降雪があり、山間部の高速道路は通行止めになつていた。



二人でマキ材を5袋と補充する非常食を小屋に運ぶ。稜線に出ると強い風が吹いており、小屋玄関を脇の温度計はマイナス6°Cを指していた。



距離標を立てる

ソーラーパネルに雪
鏡餅を回収

小屋周りの積雪は3~5 cmほどで特別多くは無いが、昨年設置したソーラーパネルは全面が雪で覆われていた。ホウキで掃き落としたが、帰り際には再び雪に覆われていた。脚立を出してお堂、管理棟、小屋の玄関に付けられたしめ縄を取り外し、管理棟とお堂の鏡餅を回収。小屋に入つてストーブに火を入れた。沖崎さんは薪の補充と整理に当たつた。歩いて登つた6名が次々に到着。村吉さんら4名は補給路に20m毎の杭を立て、行者堂横が56番になつたそうだ。補給路の距離はおよそ1,120mになる。自知君の姿が見えなくなつていたが、彼は残つたマキ材の袋を取りに終点まで降りていたらしい。午前11時ごろから吹雪模様となり、屋外の作業は困難と判断して早めの昼食を摂る。食後、村吉さんが入れてくれたコーヒ

登山口に着く

行仙宿到着

気温はマイナス6℃

浦向の役場駐車場に雪は無かつたが、R425のカナウナギトンネルを過ぎると積雪があり、四の川林道は全面雪に覆われていた。登山口でモノレールにマキ材やザックを積み登り始める。辺りは雪雲に覆われ、笠捨山や大台ヶ原も全く見えない。終点から沖崎さんと

一を駆走になる。非常食を補充し、掃除機を使おうと発電機を動かしてみたが、寒さのためかエンジンが始動せず、湯川君がホウキで床掃除してくれた。



非常食を補充

本日の参加者

雪で視界不良

外は雪が激しくなつて、これ以上作業を続けると帰りの道路状況が案じられるため、午後0時半過ぎに下山を始め、登山口に午後1時過ぎに下山した。朝と同様に役場駐車場に積雪は無かつたが、R169の前鬼口北からは圧雪路になり、路面の雪は川上村まで続いていた。

(記・梶野)

行動タイム

村役場駐車場 09：25→09：57 補給路登山口→10：33 行仙宿 12：35
→13：10 補給路登山口→13：43 村役場駐車場